

国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、吹田市医師会、吹田市歯科医師会、吹田市薬剤師会、摂津市医師会、摂津市歯科医師会、摂津市薬剤師会、吹田保健所、茨木保健所、吹田市、摂津市で確認

吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくりに関する考え方について 中間報告【案】

平成 27 年 月 日

吹田市と摂津市にまたがる吹田操車場跡地においては、国立循環器病研究センター（平成 30 年度（2018 年度）を目処に完成予定）と市立吹田市民病院（平成 30 年度（2018 年度）開院予定）の移転を控え、これらを中心とした本地域ならではの“健康・医療のまちづくり”の構想が進みつつあります。

J R 岸辺駅北駅前広場西側では、両病院に挟まれる形で健康・医療のまちづくりの機能を有する、来訪者に健康に関する行動変容を促す複合商業施設の建設が予定されています。

また、この街区に隣接するイノベーションパーク（仮称）においては、企業や大学の研究機関、サテライトオフィス等の集積拠点の整備に向けた取組も始まっています。

さらには、防災機能に加え健康増進機能を有する公園の整備、健康の概念を取り入れたウェルネス住宅地の形成の検討が進んでおります。

これまで“鉄道のまち”であった吹田操車場跡地が、新たに国立循環器病研究センターと市立吹田市民病院を中心とした“健康・医療のまち”として生まれ変わりつつあります。

こうしたまちづくりの動きと連動して、同地域を中心とした地域医療のあり方等を検討するため、吹田市及び摂津市の呼びかけにより、国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、保健所、吹田市及び摂津市の医療・行政関係者等で構成する「吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくり会議」を立ち上げ、平成 26 年（2014 年）7 月以降、延べ●回、議論を行ってきたところです。

このたび、これまでの議論を踏まえ、今後の同地域を中心とした健康・医療のまちづくりの実現に向けた考え方について、以下のとおり整理しました。

1. 基本的な考え方

- 本会議に参画するすべての関係者は、国立循環器病研究センターが掲げる「国立循環器病研究センターを核とした医療クラスター形成に関する基本的な考え方（平成 26 年（2014 年）5 月）」を念頭に、健康・医療のまちづくりに向け協力・連携していく。

- 本会議に参画するすべての関係者は、国立循環器病研究センターを中心とした様々な医療資源が集中する本エリアの特性を生かして、循環器病をはじめとする生活習慣病の予防・健康づくりに関する先進的なモデル地域を目指す。
これに際しては、吹田市、摂津市という行政区域にとらわれることなく、本エリアを一つの“まち”と捉え、協働して全国、そして世界に発信していく。
- 本会議に参画するすべての関係者は、この健康・医療のまちづくりを契機として、本エリアのみならず両市域、さらには周辺の地域も含め、広く地域医療の質の向上等に資するよう、取組を進めていく。
- 上記の目的を達成するため、本エリアにおける健康・医療のまちづくりにかかわるすべての主体が以下のような役割を果たすとともに、市民、NPO 法人、学術団体、企業など様々な主体との連携・協働を図っていく。
 - ・ 吹田市及び摂津市は、双方の行政区域にとらわれることなく連携し、吹田保健所、茨木保健所とも協力して、健康・医療のまちづくりに向け、地域医療の連携支援に取り組むとともに、意欲的に健康づくりに取り組む市民・企業を増やす健康増進施策等を進めていく。
 - ・ 国立循環器病研究センターは、隣接する市立吹田市民病院との連携を密に図るとともに、地元行政や地域医療関係者と連携する等、地域に密着しつつ、ナショナルセンターのミッションである循環器病の予防と制圧に向けた取組を進めていく。
 - ・ 市立吹田市民病院は、「市民とともに心ある医療を」の基本理念を念頭に、国立循環器病研究センターとともに隣接する両病院ならではの連携した医療提供体制を構築しつつ、地域医療関係者との連携も進め、地域医療の質の向上等に向けて取組を進めていく。
 - ・ 吹田市及び摂津市の医師会、歯科医師会及び薬剤師会（以下「三師会」という。）は、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院の移転に伴い、病院・診療所・薬局間の連携が円滑に進むよう、取組を進めていく。

2. 個別具体の論点についての考え方

(1) 地域医療について

ア 国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院が隣接することによる連携・機能分担

- 二つの急性期病院が隣接するからこそその連携した医療提供体制を構築できるよう、両病院で協議を行う医療連携連絡会議や、大阪大学医学部附属病院も参画する公的病院連携会議における議論等も踏まえ、
 - ① 複合的な疾患を有する患者への円滑・迅速な対応や診療科目の調整・連携、患者受入れの協力等による医療の質の向上、
 - ② 共同研究や医師研修等における連携、
 - ③ 高度な医療機器やドクターカー等の共同利用等、様々な連携や機能分担に向けて、協議を進めていく。

イ 国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院が吹田操車場跡地に移転することによる地域の診療所及び薬局との連携・機能分担

- 国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院は、地域の診療所及び薬局との連携や機能分担に向けて、積極的に検討を進めていく。
- 吹田市及び摂津市の三師会は、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院との連携を一層強化すべく、積極的に協議に臨むとともに、必要に応じて一層の連携強化に向けた提案等も行う。

ウ 国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院が吹田操車場跡地に移転することによる近隣病院との連携・機能分担

- 今後は、病床機能報告制度により把握される病床機能ごとの地域医療提供体制や地域医療構想（ビジョン）の策定動向等を踏まえつつ、移転後の両病院と近隣病院との連携等について、吹田保健所及び茨木保健所を中心として、必要な支援等を行っていく。

エ 国立循環器病研究センターを核とした地域における予防医療の実施・啓発

- 国立循環器病研究センターは、健康寿命の延伸を目指し、地域医療関係者、行政、企業と連携した先駆的な循環器病予防モデル事業の実施等、地域関係者の協力を得ながら、予防医療（健康増進を含む。）に取り組む。
- 例えば、吹田市、摂津市等の協力も得ながら、自治体が保有する健康、医療及び介護に係るデータを活用した健康寿命関連リスクと対策の分析を実

施するほか、新たな住民コホート研究、当該コホート集団を対象とする簡易健康チェックの実用性評価、生活習慣病改善のための介入方法や効果判定法の開発等を進める。

これに関し、吹田市及び摂津市は、地域医療関係機関や市民の協力を得ながら支援していく。

オ 平成 37 年（2025 年）に向けたこのまちの地域包括ケアシステムの構築

- 団塊の世代が全員 75 歳以上となる平成 37 年（2025 年）を見据えれば、健康・医療のまちづくりを進めていくに当たっては、医療と介護の連携も重要な課題となる。

吹田市医師会、摂津市医師会ともに、地域包括ケアシステムの推進に向けた意向が示されており、吹田市及び摂津市は、この地域ならではの医療・介護連携等、地域包括ケアシステムの構築について、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院並びに両医師会をはじめとする地域の医療・介護関係者とともに検討を進めていく。

- 市立吹田市民病院が急性期のみでなく、回復期リハビリテーション病棟の導入を検討していることを踏まえ、回復期から慢性期に移行する患者や、在宅復帰する患者に関し、近隣病院や介護施設、地域医療・介護関係者との連携の在り方について、検討を進めていく。

- 国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院が、二次医療圏が異なる吹田市及び摂津市の市境付近に移転することを踏まえ、両病院、吹田保健所、茨木保健所及び地域医療関係機関を中心に、地域連携パスの共通化の可否等についても議論を行う。

カ 吹田市（豊能医療圏）、摂津市（三島医療圏）の市境という立地

- 国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院の吹田操車場跡地への移転により、救急患者の流れ等、二次医療圏が吹田市、摂津市により異なることによる課題が生じてくることが想定される。

今後は、病床機能報告制度により把握される病床機能ごとの地域医療提供体制や地域医療構想（ビジョン）の策定動向等も踏まえつつ、吹田保健所、茨木保健所を中心として、広域的な地域医療の課題についても検討を進めていく。

- 本エリアについては、JR 岸辺駅前という好立地である一方、吹田・摂津

両市民にとって両病院へのアクセスが課題となる場合もあるとの意見もあった。今後、アクセス向上のためどのような方策が有効か関係者間で議論を進めていく。

(2) 健康・医療のまちづくりについて

ア 健診受診率の向上をはじめとする健康づくり

- 国の近年の研究をみても、特定健診や特定保健指導の受診が、健康指標の改善や医療費適正化に資する傾向があるというデータ¹が示されている。

吹田市、摂津市は、地域医療関係者、企業等とともに、特定健診や特定保健指導の受診率向上に積極的に取り組む。

- また、がん治療においては、初期段階で発見し、適切な治療を迅速に行うことが重要であるため、吹田市、摂津市は、地域医療関係者、企業等とともに、がん検診の受診率向上にも積極的に取り組む。

- 吹田市は、「吹田市『健康・医療まちづくり』基本方針（平成 26 年（2014 年）5 月、吹田市）」等を踏まえ、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院の移転を見据えながら、行政・市民・企業が一体となって、オール吹田で健康・医療問題に関する機運の醸成を進めていく。

今後は、平成 26 年度（2014 年度）に開始した健康管理拠点拡大モデル事業（すいたマチなか保健室～テレビ電話で健康相談～）の周知・定着化を進めていくほか、高齢者の生きがい創出も含め、新たな市民参加型の健康増進施策等を力強く推進していく。

- 摂津市は、本会議や摂津市健康づくり推進協議会における議論を踏まえ、平成 27 年度（2015 年度）中に「健康・医療のまちづくり計画」（仮称）を策定し、国立循環器病研究センターとの連携による循環器病予防施策、市民の健康づくり推進施策等を推進する（摂津市では、国立循環器病研究センターと「連携・協力に関する基本協定」を平成 27 年（2015 年）4 月 2 日に締結しており、同協定に基づき、当該事業に協力）。

- また、吹田操車場跡地における健康・医療のまちづくりを一つの契機として、吹田市及び摂津市の健康づくりへの市民の機運を高めるため、両市において健康づくりの共同イベント（例えば、緑の遊歩道や周辺に点在する歴史遺産を活用したウォーキングイベント等）の企画に取り組む。

¹ 「特定健診・保健指導の医療費適正化効果等の検証のためのワーキンググループ」（厚生労働省）第二次中間取りまとめ等

イ 健康指標等からみた課題

- 「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究班」（平成 24 年度（2012 年度）厚生労働科学研究）で示される、「日常生活動作が自立している期間の平均」による健康寿命²は、平成 25 年度（2013 年度）で、吹田市は男性 79.70 歳、女性 83.67 歳、摂津市は男性 78.48 歳、女性 82.72 歳となっている。

吹田市及び摂津市は、今後、この健康寿命の指標について、経年比較等による評価を続け、健康寿命延伸のための全国のモデルを目指す。

- 医療保険者においては、保健事業の実施計画（データヘルス計画）を策定し、平成 27 年度（2015 年度）から推進するとされている。

このことを踏まえ、吹田市及び摂津市においても、国民健康保険の特定健診データや医療レセプトデータ等を用い、両市における健康・医療の課題や特性について、分析等を進め、疾病予防を推進するとともに、医療費の適正化に向け、国立循環器病研究センターをはじめとする医療関係者、保健所と連携して取り組む。

- 吹田市及び摂津市は、健康増進法（平成 14 年（2002 年）法律第 103 号）に規定する市町村健康増進計画として健康すいた 21、健康せつつ 21 をそれぞれ策定し、健康に関し取り組むべき課題としての「重点項目」、項目ごとの「目標」を掲げ、様々な評価指標を用いながら、計画的な施策の推進を進めているところ。

両市は、本会議における健康・医療のまちづくりに向けた議論を踏まえながら、健康すいた 21、健康せつつ 21 に掲げる目標が達成されるよう、各般の健康増進施策等を展開していく。

ウ 吹田操車場跡地におけるまちづくり

- 本会議に参加する関係者は、国内外から「医療・健康づくりのメッカ／フロントランナー」と呼ばれるようなまちづくりを目指した発信や、医療・健康と結びついた魅力的な観光資源（最先端医療・研究の見学コース設定や体験型施設等）の確立等、国内外から多く人が集まるまちづくりを進めていく。

² 同研究においては、健康寿命の指標として、①日常生活に制限のない期間の平均、②自分が健康であると自覚している期間の平均、③日常生活動作が自立している期間の平均、の 3 つの手法が示されている。いわゆる「健康日本 21（第 2 次）」（平成 24 年（2012 年）厚生労働省告示第 430 号）では、健康寿命について①の定義を用いているが、当該指標は、国民生活基礎調査を基礎資料としているため、市町村単位での算定ができない。

- 国立循環器病研究センターは、新しいセンター内にオープンイノベーションセンター（仮称）を設置し、様々な企業や大学・研究機関との共同研究の拠点づくりを進める。
- 国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院は、まちづくりとの調和や、「学び」と「体験」の場の提供、まちづくりへの積極的な参画等、健康・医療のまちづくりに貢献していく。
- JR岸辺駅前複合商業施設については、一般的なショッピングモールではなく、健康・医療のまちづくりに調和する施設となるよう、テナント事業者と国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院及び吹田市との連携・協力を具体化するほか、「大阪府受動喫煙の防止に関するガイドライン」を遵守することを求めるなど、本会議に参加するすべての関係者は、当該施設建設予定地の譲受者であるJR西日本と密に連携していく。
- また、近隣商工業者やイノベーションパークに進出した企業等について、健康・医療のまちづくりに調和し、他のモデルとなるような、被用者の健康管理やゆとりのある勤務環境の確保を促進する。
- 吹田市は、緑のふれあい交流創生ゾーン1において、健康・医療のまちづくりの観点から、健康増進広場の整備を進めていく。
国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、地域医療関係者、保健所においては、当該健康増進広場について、
 - ① 健康増進に資する機能やその活用方法、
 - ② 公園を訪れた方が自然と健康を意識するような仕掛け
 等の具体的な検討を進めるに当たり、専門的知見から助言を行う等、当該事業への協力を努めていく。
- 吹田市は、緑のふれあい交流創生ゾーン2において、健康・医療のまちづくりの観点から、在宅医療や福祉関係の事業と一体となった高齢者向け複合居住施設の整備を進めていく。
国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、地域医療関係者、保健所においては、当該複合居住施設について、
 - ① 医療系・介護系サービス機能や、
 - ② ウェルネス住宅としての機能、
 - ③ 国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院との効果的な連携方策
 等の具体的な検討を進めるに当たり、専門的知見から助言を行う等、当該事

業への協力に努めていく。

- 健康・医療のまちづくりを実現するうえで、本エリアにおける路上喫煙の禁止を検討すべきではないかとの意見があった。
これを踏まえ、吹田市は、本エリアの各街区及び周辺道路において、環境美化の観点から、また、健康の保持増進のシンボルとして、路上喫煙禁止地域とすべく、方策を検討する。
摂津市においても、本会議の議論を受けて、摂津市健康づくり推進協議会の意見を聞きながら、検討を進める。
- 吹田市は、訪れた人が健康・自然・歴史を意識し、楽しみながら取り組めるよう、歩行者空間や植樹、景観、外国人にも分かりやすい案内標識等のハード整備から、ウォーキングイベントや食等の健康に関する市民講座の開催などソフト整備に至るまで、医療関係者や市民等の意見も踏まえながら、各種環境整備に取り組む。
- 吹田市及び摂津市は、イノベーションパーク（仮称）について、国立循環器病研究センターを中心とするオープンイノベーションの実現や健康関連産業等との連携を創出・促進する場、市民の健康寿命の延伸に資する場、地域企業にとって、ビジネスチャンスの拡大につながる場となることを目指し、国立循環器病研究センター、大阪府とともに、企業等の誘致に取り組む。
- 吹田市及び摂津市は、本エリアの健康・医療のまちづくりに賛同する大学に、市民、NPO法人やコミュニティビジネス事業者等を対象にした出張講座や起業相談室の開設を働きかけるなど、健康づくりの活動を担う人材の育成に取り組む。
- まちは、創るだけでなく市民や来街者、事業者等、多様な主体が集い、積極的かつ継続的にまちを育てていくことが重要であるため、吹田市は、各事業者と協力し、多様な主体によるこの地区のエリアマネジメント組織を設立できるよう、支援を進めていく。
摂津市、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院は、この地区のエリアマネジメント組織の設立に向けて、吹田市の取組に協力する。
また、エリアマネジメント組織の設立後は、すべての参加メンバーは、健康・医療のまちに相応しい健康増進イベントの企画等、健康・医療の観点からも積極的な検討を行い、参画していく。
- 吹田市及び摂津市は、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院等

と協力しつつ、吹田操車場跡地「健康・医療」まちづくりポータルサイトを運営、必要な情報提供に努めるとともに、大学関係者等とも連携しながら市民向けシンポジウムを開催する等、本まちづくりを効果的に広報できるよう、努めていく。

3. 今後の議論の在り方

- 吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくりに関する考え方については、本会議に参加するすべての関係者の合意により、中間報告として一定の整理を行うものであるが、本会議は、吹田市域、摂津市域の双方の関係者が参集して議論を行う有用な場であることから、引き続き定期的を開催し、両市域の関係者の連携強化に努める。

- 一方、地域医療や健康づくりの取組等は、本エリアのみをもって完結するものではない。
このことから、吹田市及び摂津市は、今後、本エリアに限らない、全市的な地域医療の連携体制の強化、全市的な健康づくりの推進等に向けた議論についても、併せて進めていく。

- 国立循環器病研究センター、市立吹田市民病院、吹田市及び摂津市の三師会、吹田保健所及び茨木保健所は、それぞれ上記の議論を行う場に必要に応じて参画するとともに、各自もこうした議論を喚起していく活動に努める。